

“おけいごと”の実態について(第1報)

ピアノ・レッスン生を対象に行ったアンケート調査の報告

小木曾 敏 子

はじめに

今日の音楽教育の分野は、学校教育としての音楽教育と学校以外の場での音楽教育(音楽活動)と大きく2つの分野に分けて考えることができる。前者には学校における音楽の授業やそれに関連した諸行事など、そして課外の部活動や各種コンクールを含めての諸行事などがある。そして、後者には趣味としての音楽活動、地域サークル活動、公民館活動または最近クローズアップされてきた生涯教育としての音楽活動、そしていわゆる“おけいごと”と呼ばれる音楽教育の場などがある。学校教育としての音楽教育に関する研究は、多岐にわたってその数も膨大なものであり、歴史もあるが、学校外での音楽教育のうち特に“おけいごと”についての資料は稀である。ハウ・ツー物の出版物は多いが、音楽教室ばかりの今日でも、その実態は憶測の域を出ない。

本文では“おけいごと”の実態のうち、ピアノを習っている子どもの実態をアンケート調査をもとにしてその一端をみようとするものである。

調査方法

1 アンケート調査方法で行う。

2 設問は38項目である。このうち選択肢から選択して答えるもの20項目、文章を記述して答えるもの18項目である。

その内容は大別すると次の4部類になる。(I)本人の音楽についての考え方や関わりあい方について8項目(内選択肢によるもの2項目)(II)ピアノのレッスンに関することについて18項目(内選択肢によるもの11項目)(III)家庭環境(音楽面)について10項目(内選択肢によるもの5項目)(IV)音楽以外の生活について4項目(内選択肢によるもの2項目)である。

3 対象は長野市内とその周辺、須坂市内と上田市内のピアノの個人レッスン方式の16教室に通うこどものうち、設問内容および方法の理解度を考慮して10才以上のものを対象とした。

4 実施方法 ピアノの個人レッスン生を持つピアノ

教師16名に依頼した。レッスンに来た時に、10才以上のこどもにその場でアンケート用紙に記入させることを原則とした。

5 実施時期 1982年5月から7月までの間に、1人1回行った。

6 回収数は154名であったが、今回はこのうち高校生までの146名でまとめることにした。回収率は87.2%である。この解答者の内訳については(表1)のようである。

表1 アンケート調査対象者

性別	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	合計
男	2	5	3	1	2	1	0	2	0	0	16名
女	16	31	28	17	15	8	7	4	3	1	130名
計	18	36	31	18	17	9	7	6	3	1	146名

アンケート集計

項目毎に集計したが、紙面の制約上男女別の報告は省略した。またアンケートの設問順は誘導解答を避けるためにこの集計の順序とは異なっている。また今回のアンケート結果に大村典子氏のアンケート調査と項目が合致するものについては大村データとして併記した。(詳しくは本稿最後尾に記載)

I 本人の音楽についての考え方や関わりあいかたについて。

1 「あなたは音楽が好きですか」(選択肢—3)

好き131名89.6%, きらい0名, どちらでもない12名8.2%, 無記入3名2.0%である。

2 「あなたはどんな音楽が好きですか」(選択肢—37)

選択肢にはクラシック系8種, ポピュラー系7種, 邦楽系15種, 教科書・子どもの歌・わらべうた系4種, 歌謡曲系3種の計37項目である。その中から好きなジャンル1位から3位までを選んで順位で答える。(表2)は

表2-1 好きな音楽のジャンル別1位 年令別 (%)

ジャンル \ 年令	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19 (無効)
ピアノ	38.9	30.6	35.5	11.1	41.2	22.2	28.6	50.0	33.3	
歌謡曲 (演歌)	11.1	19.4	12.9	33.3	5.9	0	14.3	0	0	
オーケストラ	11.1	19.4	12.9	11.1	11.8	11.1	14.3	0	0	
クラシック	0	13.9	6.5	11.1	17.6	22.2	14.3	0	33.3	
管楽	5.6	2.8	12.9	5.6	0	11.1	0	0	33.3	

表2-2 同上 2位 年令別 (%)

ジャンル \ 年令	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19 (無効)
ピアノ	5.6	22.2	16.1	27.8	17.6	11.1	28.6	33.3	0	
合唱	16.7	8.3	22.6	11.1	0	11.1	0	0	0	
歌謡曲 (演歌)	11.1	2.8	12.9	27.8	23.5	0	0	0	33.3	
オーケストラ	5.6	19.4	3.2	11.1	17.6	33.3	14.3	33.3	0	
クラシック	5.6	0	6.5	11.1	17.6	0	0	0	0	

表2-3 同上 3位 年令別 (%)

ジャンル \ 年令	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19 (無効)
ピアノ	11.1	16.7	16.1	22.2	29.4	22.2	0	0	0	
オーケストラ	5.6	8.3	9.7	11.1	5.9	0	42.9	50.0	0	
歌謡曲	5.6	11.1	12.9	11.1	0	0	0	0	0	
フォーク	5.6	2.8	3.2	5.6	11.8	22.2	0	16.7	33.3	
学校教材	22.2	5.6	6.5	5.6	0	0	0	0	0	

その結果を年令別に示したものである。

好きな順位1位のうちクラシック系98名67.1%、ポピュラー系15名10.3%、歌謡曲系14.3%である。順位2位ではクラシック系94名64.4%、ポピュラー系16名11.0%、歌謡曲系16名11.0%である。順位3位のうちクラシック系71名48.6%、ポピュラー系29名19.9%、歌謡曲系11名7.5%である。

このうちピアノ音楽が好きだと答えたものは、1位で31.5%、2位で16.4%、3位で17.8%である。

また選択肢毎にみると好きな順はそれぞれ次の通りである。1位ではピアノが一番多く、ついで歌謡曲、オーケストラ、クラシック、管楽器の順である。2位では、ピアノ、合唱、歌謡曲、オーケストラ、クラシックの順になる。3位ではピアノ、オーケストラ、歌謡曲、フォーク、学校唱歌、ポップスの順である。

好きな音楽の1位から3位までのの中に、クラシック系が入っていないものは13% (女のみ)、クラシック系が1/3入っているものは2.7% (女のみ) がみられた。

3「あなたの好きな作曲家または音楽家 (ミュージシャン) は誰ですか。何人でも書いてください」(記述式) 名前のがあった63名中、クラシック畑が44名69.8%、ポピュラー畑19名30.2%である。また63名中、作曲家は33名52.4%、演奏家が11名17.5%、自作自演するタイプが19名30.2%である。そして、日本人は21名33.3% (内ポピュラー畑は14名22.2%)、外国人は42名66.6% (内クラシック畑が37%58.7%) である。また63名中現在活躍中の音楽家はクラシック畑で14名、ポピュラー畑は19名 (全員) である。

好きな音楽家を大村データと比較してみる。

() 内は大村による

“おけいごと”の実態について(1)

表3 好きな音楽家(上位7名) 年令別 (%)

年令	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
ベートーベン	61.1	58.3	45.2	27.8	29.4	33.3	28.6	25.0		
モーツァルト	27.8	38.9	22.6	22.2	17.6				66.7	
ショパン	16.7	11.1	9.7	11.1	35.3	44.4	28.6	83.3	33.3	
パッハ	22.2	11.1	6.5	16.7	17.6	44.4				
シューベルト	16.7		32.3	11.1	13.3				33.3	
チャイコフスキー	5.6	2.8	9.7		11.8		28.6	16.7		
リチャード・クレイダーマン		8.3	3.2	5.6	17.6	11.1		16.7		
なし・わからない		5.6	9.7	16.7	13.3					
無記入	16.7	8.3	9.7	11.1						1名 100

表4 好きな曲 上位 年令別

曲名	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計(名)
乙女の祈り	1	5	1	3	1	0	0	0	0	0	11
ビバルディ・四季	0	1	5	1	0	1	0	1	0	0	9
エリーゼのために	4	2	0	2	0	0	0	0	0	0	8
白鳥の湖	1	4	1	0	0	1	0	0	0	0	7
トルコマーチ	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	6
クシコス・ポスト	0	2	1	0	2	0	0	0	0	0	5
運命	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	5
ハンガリア舞曲第5番	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5
小犬のワルツ	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
剣の舞	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	4

表5 一度弾いてみたい曲 年令別

曲名	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計(名)
エリーゼのために	6	6	2	2	0	0	0	0	0	0	16
乙女の祈り	1	2	5	3	0	0	0	0	0	0	11
小犬のワルツ	2	4	1	1	0	0	0	0	0	0	8
トルコマーチ	0	4	1	2	0	0	0	1	0	0	8
月光の曲	0	2	1	1	1	1	1	0	0	0	7
運命	2	1	2	0	2	0	0	0	0	0	7
幻想即興曲	0	2	0	0	1	1	1	1	0	0	6
英雄ポロネーズ	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	4

- 1位 ベートーベン (ショパン)
- 2位 モーツアルト (ベートーベン)
- 3位 ショパン (モーツアルト)
- 4位 バッハ (バッハ)
- 5位 シューベルト (シューベルト)

6位 (チャイコフスキー (以下大村データなし)
リチャードグレイダーマン

以下リスト、フォスターと続く。

これを年令別にみたものが(表3)である。

4「あなたの好きな曲は何ですか。曲名を書いてください」(記述式)(表4)参照

計101曲のうちピアノ曲は37曲36.6%, その他の器楽曲は27曲26.7%, 声楽曲は3曲3.0%, ポピュラー器楽曲12曲11.9%, 同歌の曲22曲21.8%である。

好きな曲を大村調査と比較してみる。

- ()内は大村による
- 1位 乙女の祈り (エリーゼのために)
 - 2位 ビバルディ:四季 (月光)
 - 3位 エリーゼのために (運命)
 - 4位 白鳥の湖 (小犬のワルツ)
 - 5位 モーツアルト・トルコマーチ (別れの曲)
 - 6位 (クシコス・ポスト(以下大村データになし)
運命
ハンガリア舞曲第5番
 - 7位 (小犬のワルツ
剣の舞

5「一度でいいから弾いてみたいと思う曲がありますか。曲名()」(記述式)

(表5)参照。計54曲のうちピアノ曲は39曲72.2%, その他の器楽曲は9曲16.7%, 声楽曲1曲, ポピュラー曲3曲5.6%, 同歌の曲4曲7.4%である。

弾いてみたい曲を大村調査と比較してみる。

- ()内は大村による
- 1位 エリーゼのために (エリーゼのために)
 - 2位 乙女の祈り (乙女の祈り)
 - 3位 (小犬のワルツ (即興幻想曲)
モーツアルト:トルコマーチ (4位トルコマーチ)
 - 5位 (月光の曲 (展覧会の絵)
運命 (英雄ポロネーズ)
 - 7位 幻想即興曲 (以下大村データなし)
 - 8位 英雄ポロネーズ

好きな曲なしと答えたものは4.1%, わからないが3.4%, 無記入が11.6%あった。

6「あなたは自分の子どもにもピアノを習わせたいと思いますか」(選択肢-3)

習わせたいと思う 77名52.7%, 習わせたいとは思わない 6名4.1%, わからない 61名41.8%であった。

7「その理由(わけ)は何ですか」(記述式)

a. 習わせたいと思うもの77名のうち、音楽の楽しさを知ってほしい16名20.8%, 音楽を好きになってほしい8名10.4%, 自分がやっている(いいと思う)から8名10.4%, 大人になってから役立つから7名9.1%, 子どもと一緒にひきたい6名7.8%以下勉強になる、授業に役立つ、自分より上手にでききたい、自分が教えてやれるが各5名6.5%など総計33項目がその理由として記述された。

b. 習わせたいとは思わないもの6名の理由は、子どもの気持をわかってやりたい、無理にさせるのはかわいそう、他にやりたいものがあるかもしれない、他の楽器をやらせたい、私が教えてやる、塾には行かせたくない、お金がかかるである。

c. わからないと答えた61名のうち、やりたければやらせる・子どもに考えさせるなどが15名24.6%, まだ先のことだし子どもがいないので考えたことがないなどが11名18.0%, やりたくないかもしれない・無理にやらせるのはかわいそう・上達しない、子どもの性格によるなど8名13.1%, ピアノがあるか(買えるか)わからない・子どものやりたいものをやらせたい、男ならやらないが女ならやらせるなど他11項目、総計17項目の理由が記述された。また、理由なし、わからない、無記入のものは13.0%である。

8「あなたにとって音楽って何ですか」(記述式)

数多くの語が記述されたが、それを大きくまとめてみると、楽しいもの44名22.5%, 心の安らぎ37名20.9%, 生活に不可欠なもの28名15.8%などとなる。その記述された語の中で多いものは、楽しいもの17.1%, 心に安らぎを与えるもの10.3%, 人を楽しくさせるもの6.8%, 趣味5.5%, ストレスや悩みの解消4.8%以下面白いもの(いろいろ表現できる・心をこめることができる・人と合わせることができる), 友達, 身近なもの, 自分をわかってくれる分身, 生きるのに不可欠, 生活の一部, 心を豊かにしてくれる, 勉強, 大切なもの, 心の栄養剤, 活力源, 生きがい, 素晴らしいものなど以下19項目総計57項目が記述された。その他わからない10.3%, 無記入12.3%であった。

II. ピアノのレッスンに関することについて

9「何才から習い始めましたか」(記入式)

a. 開始年令は(表6)のようであるが、多いものから6才39名29.5%, 5才31名23.5%, 4才21名15.9%の順である。そのほかに一度やめて再度習っているものが3.4%(5名)ある。

大村データと比較してみると次のようである。

()内は大村による

“おけいごと”の実態について(1)

表6 ピアノを習い始めた年齢 年齢別

開始年齢 \ 年齢	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計(名)
3才から		2	2		1	3				1	9
4才 //	3	5	3	3	2	2	2	1			21
5才 //	6	10	9	3	2			1			31
6才 //	4	9	10	4	8	2		1	1		39
7才 //	2	3	2	5	1	2	1	1			17
8才 //	1	4	2	1	1		1				10
9才 //		2	1						1		4
10才 //							1				1
11才 //			1								1
再開		1	2				2		1		5
わからない					1			2			3
無記入	2			2	1						5

表7 ピアノを習い始めた動機 年齢別 男/女

年 令	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計(名)	
選択肢												
自分でやりたいと思ったから	11	2	1	21	8	6	1	6	7	2	2	91
親にやりなさいといわれたから	1	2	2	4	2	2	1		1			17
友だちがやっていたから		3	3	1	1	3	2					13
兄や姉がやっていたから		2	4	1	4	4	1		1	1		19
先生にすすめられたから				1								1
な ン と な く		1	2	2	2							7
知 ら な い う ち に	1	1			1	4	1			1		9
わ か ら な い		1										1
そ の 他			1									1
無 記 入												0

3才～6才 (大村調査では2才～6才)

男 62.5% (74%)

女 71.5% (70%)

7才～11才 男 18.8% (21%)

女 22.3% (28%)

11才以上 男 0名 (5%)

女 0.8% (2%)

b. 経験年数は6年目が31名21.2%, 8年目が21名14.4%, 7年目が20名13.7%, 5年目が19名13.0%, そ

の他が37.7%である。

10「ピアノを習い始めた動機は何ですか」(選択肢—7)

(表7)のようになるが、複数回答をしたものがある。これを男女別到大村データと比較してみる。

()内は大村データ

・自分でやりたいと思ったから91名62.3%

男 37.5% (18%)

女 65.4% (26%)

表8 最初に教わった人 年令別

年令 最初の先生	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計(名)
オルガン教室	1	7	6	4		3	1				22
ピアノの先生	15	23	22	12	12	5	4	5	3	1	102
父 親	1				1	1					3
母 親	3	1	2	1	2		1	1			11
兄 姉		3	1								4
そ の 他		3	1	1	1		1				7
無 記 入					1						1

表9 何人の先生に習ったか 年令別

年令 数	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計(名)
1人	10	12	8	7	6	2		1	1		47
2人	6	6	8	7	5	4	5	4			45
3人	1	8	7	2	1	1	1		1	1	23
4人		2	2	1	2	1	1				9
4人以上	1	7	4	1	(8人) 3	1		1	1		19
無 計 入		1	2								3

・親にすすめられたから 17名 11.6%

男 31.5% (46%)

女 9.2% (35%)

・兄姉・友達がやっていたから 32名 21.9%

男 18.8% (15%)

女 22.3% (15%)

・知らないうちに(大村調査にはない)

男 12.5% 女 5.4% である。

11「最初に誰から教わりましたか」(選択肢一6)

最初の先生は(表8)となった。複数回答したものがある。

ピアノの先生102名69.9%, オルガン教室で22名15.1%, 母親12名8.2%, 父親4名2.7% (女のみ), 兄姉4名2.7% (女のみ), その他(幼稚園・学校の先生, 友人)5名3.4%である。

12「何人の先生に習いましたか」(選択肢一5)

大村データと比較してみる。

()内は大村データ

・1人 47名 32.2%

男 37.5% (45%)

女 31.5% (23%)

・2人 45名 30.8%

男 37.5% (39%)

女 30.0% (27%)

・3人以上51名 34.9%

男 18.8% (28%)

女 36.9% (48%)

現在の先生が8人目というものが1人ある。これを年令別にみたのが(表9)である。

13「練習時間はどのくらいですか」(選択肢一6)

(表10)の通りである。しかしながら、日数で練習時間を調査した大村データと比較するために、当方のデータも日数別に分けてみたものが次のようである。

()内は大村データ

・毎日練習する 男 56.3% (34%)

女 66.9% (30%)

・週に2・3日する

男 6.3% (22%)

女 7.7% (31%)

・週に4・5日する(小木曾は3日～5日)

男 31.3% (22%)

女 23.8% (25%)

“おけいごと”の実態について（１）

（表10） 練習時間について 年令別

年令 選択肢	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計(名)
毎日 30 分 位	5	10	4	1	3	1		1	1		26
毎日30分～1時間	7	12	14	5	9	3	5	4			59
毎日 2 時 間 位		1	1		1	2	2				7
毎日 3 時 間 以 上		1						1	1	1	4
週に 3 日 以 内	2		4	4		1					11
週に 3 日～5 日 位	4	12	7	7	4	2					36
(弾きたい時に)			1								1
無 記 入				1					1		2

（表11） ピアノを習っている理由

選 択 肢	選択肢合計を 100 とした人数 (%)	146 名を 100 とした人数 (%)
ピアノや音楽が好きだから	31.3	73.3
学校の授業に役立つから	12.0	28.0
音楽の才能をのばすため	11.7	27.4
目標にしている曲が弾けるようになりたい	10.9	25.3
将来の自分の生活に役立つから	10.3	24.0
自分の人生を豊かにしたいから	5.6	13.0
音感がよくなるから	4.1	9.6
集中力がつくから	3.5	8.2
家にあるピアノがもったいないから	2.3	5.5
情操教育のため	1.5	3.4
ただ何となく	1.5	3.4
親がやりなさいというから	1.2	2.7
発表会などで人前でやれるから	1.2	2.7
兄弟が習っているから	0.9	2.1
友だちがやっているから	0.9	2.1
音痴をなおしたいから	0.9	2.1
頭がよくなると思うから	0.3	0.7
かっこうがいいから	0	0
無 記 入	0	0

表12 ピアノをやめたいと思ったことがあるか 年令別

年 令	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計(名)
選 択 肢											
思ったことがあった	8	23	22	16	15	6	4	4	1	1	100
今やめたいと思っている	1		2	1							4
今やめようか迷っている		1	1	1		1					4
やめたいと思ったことはない	9	12	6	1	2	2	3	2	2		39
無 記 入				1名ダブル回答							0

・殆どしない (小木曾に項目なし)

男— (1名)

女— (4名)

14「どうしてピアノを習っているのですか。目的は何ですか」(選択肢—18)

(表11)にある通りである。。複数回答している。

ピアノや音楽が好きだから107名31.3%,学校の授業に役立つから41名12.0%,音楽の才能をのばすため40名11.7%,目標にしている曲が弾けるようになりたいから37名10.9%,将来の自分の生活に役立つから35名10.3%が多いものである。

15「ピアノのレッスンを途中でやめたいと思ったことがありますか」(選択肢—4)

(表12)のようになるが、大村データと比べると次のようになる。()内は大村データ

・レッスンをやめたいと思うことがある、またはあったとする者は

男 62.5% (73%)

女 74.6% (75%)

・やめたいと思ったことはないと答えたものは

男 37.5% (27%)

女 25.4% (25%)

である。

16「やめたいと思った理由(わけ)は何ですか」(選択肢—6)(表13)であるが、複数回答したものがある。

ピアノレッスンに関係した事項がその理由とするものが99名67.8%,学校に関係した事項が理由としたものは47% 32.2%,無記入が38名26.0%である。

大村調査で行ったレッスンをやめた人250名のアンケートでは前者が男59%女52%,後者が男36%女45%となっている。

17「それでもやめないで続けていてどうですか」(選択肢—2)

大村データと比較してみると、()内大村データ

・続けていてよかった 117名 80.1%

男 62.5% (77%)

女 82.3% (84%)

・別によかったとは思わない 11名 7.5%

男 12.5% (5%)

女 6.9% (2%)

・わからない (小木曾にこの項目なし)

(男 18%)

(女 14%)である。

・無記入は 18名 13.3% (男 25%, 女 10.8%)である (小木曾データ)

18「ピアノを習っていてよかったと思うことは何ですか」(記述式)

計47項目の記述があったが、内容が同じものをまとめてみていくと次のようになる。

ピアノが弾けるようになった61名85.9%,授業に役立つ45名26.5%,楽しくなった21名12.4%,生活が豊かになった10名5.9%,精神面でプラスになるが8名4.7%などである。

これを記述された語からその多いものをみると、授業に役立つ26名17.8%,いろいろな曲がひけるようになった21名14.4%,ピアノが弾けるようになった、ピアノや音楽が楽しくなったが各12名8.2%であり、以下好きな曲がひけるようになった、譜が読めるようになった、上手になった、音楽がわかるようになった、人の前でひけるようになったなど計46項目の記述があった。

19「今やっている曲は何ですか」(記述式)と問われて曲名が記入できたものは137名93.8%であった。今回はその関心度をみるのが目的であるから、曲名の報告は省略する。

20「今やっている曲はどうですか」(選択肢—4)

気に入っている112名76.7%,つまらない9名6.2%,むづかしすぎる5名3.4%,わからない18名12.3%で、無記入は2.1%である。

21「レッスンの時にやる宿題曲以外の曲を遊び弾きしますか」(選択肢—3)

これについて大村データと比較する。

“おけいごと”の実態について(1)

表13 やめたいと思った理由

年令別 (%)

年令	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
選択肢										
むづかしい	16.3	22.2	25.8	38.9	29.4	11.1	14.3	16.7	33.3	
おもしろくない	16.3	8.3	9.7	11.1	5.9	11.1	44.4			
練習をするのがいやだ	22.2	19.4	25.8	38.9	41.2		14.3			100
学校の勉強が大変	16.3	13.9	16.1	33.3	11.8	11.1				
クラブ活動がしたかった			6.5	11.1	23.5			33.3		
先生が原因			3.2	5.6				33.3		
そ の 他	16.3	8.3	12.9	5.6		11.1	14.3	16.7		

表14 遊び弾きの曲 男/女

年令	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計(名)
選択肢											
よくやる	1 4	9 14	14 7	1 8	1 4	4 3	1 2	2 1	2 1	58	
時々やる	1 10	2 17	13 6	1 7	4 4	3 2	1 2	1 1	73		
全くやらない	1 2	2 5	3 1	1 1					12		
無 記 入	2 2		1 1						3		

() 内は大村データ

- よくやる 58名 39.7%
 - 男 25.0% (21%)
 - 女 41.5% (42%)
- 時々やる 73名 50.0%
 - 男 31.3% (42%)
 - 女 52.3% (40%)
- 全くやらない 12名 8.2%
 - 男 37.5% (36%)
 - 女 4.6% (18%)

その年令別一覧表が(表14)である。

22「その曲名は」(記述式)

学校の曲がのべ39曲25.3%, 既習ピアノ曲がのべ17曲11.0%, 歌謡曲はのべ14曲9.1%, ピアノの小曲がのべ13曲8.4%である。遊び弾きされる曲で多い曲は、エリーゼのために11名、乙女の祈り8名、猫ふんじゃった8名である。

23「今まで習った曲の中で好きな曲は何ですか」(記述式)(表15)

ブルグミュラー(全25曲中15曲)41名28.0%, ソナチネ10名6.0%, 小曲(35曲記述され)59名40.4%, ソナタ級の曲(9曲)21名14.4%である。

計ピアノ曲66曲, 電子オルガン(ポピュラー)曲10曲

表15 既習曲で好きな曲

曲 名	人数(名)
エリーゼのために	9
シューベルト: 即興曲	6
ブルグミュラー: やさしい花	6
同 上 : 貴婦人の乗馬	6
同 上 : 牧歌	5
同 上 : パラード	4
同 上 : タランテラ	4
同 上 : アラベスク	4
バッハメヌエット	4
乙女の祈り	4
クシコス・ポスト	3
アレキサンダーマーチ	3
禁じられた遊び	3
無 記 入	9

あり, のべ167曲の記述がなされた。わからないと答えたものは5.5%, なしと答えたもの6.8%, 無記入は6.2%

であった。

24「ピアノの先生でどんな先生がよい先生だと思いますか」(記述式)

計69項目の記述があったが、同じ内容をまとめていくと次のような傾向になる。

きちんとよく教える73名50.0%, ほめる所と叱る所がはっきりしている39名28.7%, やさしい22名15.1% (男の方が数が多い), 先生の人柄が関係する11名7.5% (男が女の2倍あり), わからないが6.2%, 無記入が9.6%である。

25「ピアノの先生でどんな先生がよくない先生だと思いますか」(記述式)

計60項目の記述があったが、大きくまとめてみると、教え方がよくないが51名34.9%, すぐ怒る48名32.9%, 自己中心的16名11.0% (女のみ), 甘い14名9.6%, 先生の性格的なもの13名8.9% (女のみ) である。わからない9.6%, 無記入は13.7%である。

26「先生によってピアノをやる気が起きたり, やる気がなくなったりすることがあると思いますか」(選択肢一3)

大村データと比較してみる。()内は大村データ
・あると思う 79名 54.1%

男 50.0% (70%)

女 54.6% (71%)

・そんなことはない 32名 21.9%

男 12.5% (9%)

女 23.1% (16%)

・わからない 36名 24.1%

男 37.5% (21%)

女 23.1% (13%) である。

Ⅲ 家庭環境について (音楽面)

27「家にどんな楽器がありますか」(選択肢一9)

ピアノ140名95.9%, ギター50名47.6%, オルガン20名19.0%, 電子オルガン15名14.3%, フルート10名9.5%以下尺八3名, 琴, 三味線, 胡弓, マンドリン, ヴァイオリンなど計17種類であった。

家にある楽器の組合せは(表16)である。

楽器が1種類だけあるものは66名45.2%, 2種類あるものは60名41.1%, 3種類あるものは17名11.6%, 4種類あるもの, 5種類あるものは各1名0.7%である。

28「あなたはピアノの他に演奏できる楽器がありますか」(記入式)

オルガン32名20.7%, 電子オルガン17名11.1%, ギター16名10.4%, フルート12名7.8%, クラリネット10名6.5%, ドランベツト9名5.8%など計25種類の楽器名が記入された。ただし, たて笛, ハーモニカ, 鍵盤ハーモニ

表16 家庭にある楽器

楽器組合せ	人数(名)
P だけ	63
E だけ	3
O だけ	1
P + E	5
P + O	10
P + G	34
P + F	4
P + 琴	1
P + 尺八	2
P + V	1
O + G	3
P + 管	2
P+O+G	4
P+E+G	4
P+E+O	1
P+G+琴	1
P+O+F	1
P+E+G+F	1
P+G+琴+三味+胡弓	1

(註) P—ピアノ E—電子オルガン O—オルガン
G—ギター V—ヴァイオリン F—フルート
管—管楽器類

カ, 鉄琴, 木琴は演奏技術の観点からみて除いてある。

29「あなたの家にピアノを買ったのはなぜですか」(選択肢一3)

ピアノの練習に必要なことから137名93.8%, 友だちの家にあるから自分もほしかった1名0.7%, 前からあった, わからないなど4名2.7%, 無記入, ピアノがないので無解答4名2.7%である。設問の「家に一台あった方がかっこうがいいから」は0名であった。

30「ピアノのレッスンや練習について, 「家の人はどうでしたか」(選択肢一8)

(表17)の通りである。大村調査による分類では次の()のようにまとめてあるので, それにならって集計してみる。()内は大村データとその項目。

・(両親ともピアノについて意見をいう)

男 12.5% (24%)

“おけいごと”の実態について (1)

表17 ピアノレッスンに対する親のかかわり方

男女別

選択肢	男女別	男	女	計
両親が熱心		2	22	24
父親が熱心			1	1
母親が熱心		6	33	39
両親がうるさい			7	7
父親がうるさい			3	3
母親がうるさい		4	17	21
何もいわない		4	48	52
親は無関心				0
無記入		1	6	7

女 22.3% (27%)

・ (父親だけがいう)

男 0名 (2%)

女 3.1% (10名)

・ (母親だけがいう)

男 56.3% (57%)

女 37.7% (47%)

・ (両親とも無関心)

男 0名 (16%)

女 0名 (19%)

・ 親は何もいわない 35.6%

男 25.0% 女 36.9%

(この項目は大村調査にはない。)

31「あなたの小さい時に親がうたってくれた歌は何ですか。」(選択肢一7)

子守歌52名35.6%, 童謡46名31.5%, わらべうた23名15.8%, 学校唱歌12名8.2%, うたってもらわなかった1名0.7%, わからない34名23.3%, 無記入17名11.6%, その他レコード2名1.4%である。複数回答をしたものがある。

32「あなたの家の人の音楽体験・音楽経歴について」(記入式)

a「ピアノを習ったことのある人がいますか。それは誰ですか」では父親4名2.7%, 母親30名20.5%, 兄弟16名11.0%, 姉妹57名39.0%である。

33「同上。ピアノ以外の音楽(歌・楽器)を習った人がいますか。誰ですか」(記入式)

父6.8%, 母11.6%, 兄弟6.2%, 姉妹11.6%, 祖父母2.1%, 自分7.5% (男18.8%, 女6.9%)である。

表18 ピアノ以外に習っているもの

種 目	人 数(名)
習 字	34
英 語	24
珠 算	14
数 学	11
ソルフェージュ	10
声 楽	9
そ の 他	24
な し	14
無 記 入	51

34「同上。その楽器は何ですか」(記入式)

ヴァイオリン9名, ギター7名, 声楽7名, フルート6名, 合唱5名以下クラリネット, トロンボーン, トランペット, ホルン, 琴, 三味線, 詩吟など8種類計21種類が記入された。

IV 音楽以外の生活について

35「ピアノの他に習っているものは何ですか」(選択肢一19)

ピアノの他に習っている81名55.5%, ほかに習っていない(無記入も含む)65名44.5%であった。

数の多いものを(表18)で示した。

ピアノ以外にいくつ習っているかをみると, 1つは42名28.8%, 2つが29名19.9%, 3つは6名4.1%, 4つは2名1.4% (女のみ)であった。

36「学校の勉強で好きなものは何ですか」(選択肢一10)複数回答あり。

多いものは音楽105名24.4%, 体育77名17.9%, 数学48名11.9%, 英語42名9.7%, 国語38名8.8%であった。

好きな教科を男女別にみると次のようである。

男	女
音楽 50.0%	音楽 74.6%
体育 50.0%	体育 53.1%
数学 37.5%	数学 32.3%
理科 37.5%	英語 29.2%
社会科37.5%	技術家庭 26.2%

37「何をしている時が一番楽しい時ですか」(記述式)記述されたものをまとめてみると次のようである。音楽をしている時58名39.7%, 遊んでいる時30名20.5%, 友だちと(おしゃべりも含む)いる時24名16.4% (女のみ), 読書(まんがも含む)している時20名13.7%, ス

スポーツをしている時13名8.9%である。

これを記述された語そのままのものでは、遊んでいる時19.2%, おしゃべり11.6%, ピアノをひく11.6%, 読書11.0%, 歌う8.9%, 音楽をきく7.5%以下眠る, 友達と一緒にいるなど計40項目の記述があった。なしと答えたもの1.4%, わからないと答えたもの0.7%, 無記入は2.1%である。

38「今一番やりたいことは何ですか」(記述式)

記述されたものを次のように大きくまとめた。音楽をしたい(きく, ひくなどを含む)42名28.8%, スポーツをしたい22名15.6%, 好きなこと(趣味も)17名11.6%, 旅行(海外旅行も)12名8.2%, 遊びたい10名6.8%の順である。

記述された語でみると, 遊びたい10名6.8%, 好きなだけピアノをひきたい6名4.1%, 他の楽器をひいてみたい6名4.1%, 水泳をしたい5名3.4%以下バスケット, 手芸など計50項目が記述された。また, わからない1名0.7%, なし24名16.4%, 無記入17名11.6%があった。

結果と考察

(i)好きな曲と弾いてみたいと思う曲が合致しているものは22.3%である。クラシック37名中ピアノ曲は27名である。エリーゼのために5名, 運命3名, 幻想即興曲, 乙女の祈り, 英雄ポロネーズ, 小犬のワルツ, 愛の夢, カンパネラ, トルコマーチ, チャイコフスキーのピアノ協奏曲が各2名あり, 以下18曲がある。ポピュラー系の曲では10.3%が合致している。

好きな曲では年齢による相違がみられるが, 学校教材の影響を考慮することができよう。

また, 好きな曲を積極的に答えなかったものは約20%におよんでいる。

(ii)ピアノを個人レッスンで始めたものは70%であるが, 当初の先生のままで現在に至っている者がそのうちの46.1%ということが読める。また19%が4人以上の先生に習ってきたし, 今の先生が8人目というものが1名いた。自分に合った良い先生に出会うことが習う側にとっては大きな問題であって, 37%のものは1人または2人目の先生でもまだ自分の先生にめぐり合えなかったということがいえよう。

(iii)習い始めた動機については, 男女の違いがみられる。自分からやり始めたという男子は女子のその58%である。しかし, 親がやらせたので始めた男子は女子の3.4倍ある。

(iv)練習を定期的にする者と不定期なものとをみると, 子どもをとりまく生活が大きく支配していることがわか

る。10才から12才までは定期的と不定期的の割合が2:1であるが, 13才で1:2と逆転し, 14才で3:1となる。16才以上になると定期的に練習している。これは, 中学生時代は部活などで帰宅時間が遅く, 家での勉強時間の増加なども加わって時間にゆとりがないことが原因であろう。

(v)ピアノを習っていることが, 音楽それ自体と結びついているとみられる解答は42.2%である。同じ見方からピアノを習っていてよかったと思う項目をみると57.0%である。しかし, 授業に役立つからよいなど実益の部分はほぼ同じ位の数であることは共通である。

(vi)遊び弾きの曲については, 精神的な発達が現われている。エリーゼのために, 乙女の祈り, 猫ふんじやった, その他小品は14才で姿を消す。一方13才から弾き語りが, 18才からフォークやロックが現われる。

これに関連した現象は, ピアノ以外に演奏できる楽器の項にもみられる。ピアノ以外で演奏できる楽器は1人当り10才から12才で0.9, 13才から15才で1.3, 16才からは1.0である。その楽器は, 管楽器は中学生の56.8%が演奏でき, ギターは高校生の26.7%が演奏できると答えている。前者では学校での部活動が影響しているし, 後者では精神的情緒的発達から由来していると考えられる。

(vii)レッスンと家人の関わりあい, 大村データとの相違が親の無関心の点にある。小木曾データの親は何もいわない35.6%をそのまま無関心と読み替えることはできないと思われる。また口うるさいということが熱心ということになるとも言いきれない。

(viii)家人で音楽経験を持っているのは両親が41.6%(内父親9.5%), 兄弟姉妹では67.8%(内男17.2%)である。家庭での音楽への関心は高いが, その数をみると男と女の1/4である。この傾向は, 現在ピアノを習っているこのアンケート対象者にも(非常に小さい数ながら)みられた。即ち, 自分の子どもにもピアノを習わせたいと思うかの設問に女なら習わせるが男なら習わせないというはっきりした考えが現われていることにみられる。

(ix)好きな教科で男女共通なものの上位3教科は音楽・体育・数学であるが, これは音楽することの要素と相通ずる所のある教科で, 必然的な結果であろう。しかしこれは皮相的に判断したことであるから, 今後その科学的な研究が課題となる。

(x)音楽が好きでその設問に積極的に好きと答えなかった10名と, 好きな音楽のジャンルの1位から3位までにクラシック系が1つも入らなかった19名と, 1/3だけクラシック系が入っていた4名とこの三者の合計の33名(のべ人数)をとりだして考察してみる。この33名をA

“おけいごと”の実態について（1）

群とし、その他をB群として両群間の相違点について数差のある項目を比較する。まず、弾いてみたいと思う曲ではA群のクラシック系の曲はB群の1/3で、ポピュラー系と演歌系にはB群の3倍の曲数が記された。また、遊び弾きをする曲でもA群ではポピュラー系や演歌系にB群の2倍の数が現われている。ピアノを習い始めた動機をみると、自分から始めたものはB群より10%少く、親にすすめられて始めたものはB群より6%多い。やめたいと思ったことがあると答えたものはB群より4%多く、その理由としては練習をするのがいやだったものはB群より7%多く、学校の勉強が大変だからというものは6%B群より多い。しかし、ピアノが好きで習っていると答えたものが多く、練習時間をみても2時間以上毎日練習すると答えたもの（146名中11名）のうち3名がA群にいる。その一方では、自分の子どもにもピアノを習わせたいと思うかの設問で、女ならば習わせるが男ならばやらせないと答えた名はすべてA群である。

ポピュラー曲や歌謡曲に興味の大半を示しているA群のピアノが好きで、毎日長時間練習を欠かさないものがあるというこの実態、そしてB群でも好きな音楽のジャンルの25%近くをポピュラー・演歌系が占めている子どもたち。彼らのピアノのおけいごと毎日の生活感情や自分自身の感覚とはどういう関係を保持しているのか、こ

の点について今回のデータでは十分に解明することができなかった。

おわりに

おけいごの実態について、今回はその第一報として現在ピアノのレッスンを受けている10才から高校生までのアンケート調査に対する反応からみてきた。ピアノのおけいごとが子どもの生活から浮き上がっているのではないかという懸念は払拭しきれないが、見栄や外聞にとらわれず地道になされているということは、今回の対象となったレッスン生のピアノ教師の人柄による所が大であると考ええる。今回の調査地域は、地方都市の中の一部の子どもたちであったが、併記した大村データの全国250名のレッスン生対象のものと大きな差がみられなかったということは、一応平均的なデータとしてとらえられるとみてよいと思われる。

なお、上記の大村データとは1982年7月に出版された大村典子著「ヤル気を引き出すピアノレッスン」（音楽之友社）中のピアノレッスン生男女各125名の小学生から一般までを対象のアンケート調査結果である。最後に御協力いただいたピアノの先生方と、御指導くださった川井教授に感謝致します。